

開業整形外科医の将来に向けて 一口コモ予防を意識した診療をー

座長：原田 昭 (原田整形外科病院)
長谷川利雄 (長谷川整形外科医院)

1-P2-5 整形外科開業医が地域で活躍するために ～一口コモとフレイルを活用しよう～

ながしま きみゆき
◎長島 公之

長島整形外科 (栃木県)

【目的】開業医は整形外科医であっても、今後、地域での活動が必須となることが予想される。その際、専門性を生かして、地域で活躍するために、一口コモとフレイルの概念や手法を活用することの有用性について検討する。

【背景】2025年を目途に構築される地域包括ケアシステムでは、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるため、開業医にも、専門領域の医療だけではなく、地域での活動が要求されることになる。

【考察】一口コモは、要支援・要介護状態の要因の第1位は「運動器の障害」であるため、一口コモ予防のために、整形外科医の果たす役割は大きい。一口コモの優れた点は、一口コモ度テストやロコトレなど、具体的な診断や対策の手段が確立し、一口コモコーディネーターなどの制度も整備されていることである。また、整形外科医であれば、各個人の運動器の状態に応じた個別的な対応も可能となる。しかし、人の生活自立度は、移動機能以外にも様々な要因が関係してくるといふ問題点がある。フレイルは「加齢とともに環境因子に対する脆弱性が高まった状態」で、一口コモは身体的フレイルに含まれると言われる。フレイルの優れた点は、身体的問題のみでなく、認知症などの精神・心理的問題や、社会的問題も含め、高齢者の問題を包括的に捉えており、多職種連携を重視していることである。一方、まだ、具体的な手段が確立していないという弱点がある。

【結論】整形外科開業医は、専門性が発揮できる一口コモ予防を中心に、フレイルの知識も取り入れた上で、多職種と連携しながら、地域包括ケアシステムに積極的に参加することで、地域での活躍が可能となると考えられる。